

2021年4月新着情報



海外／国際機関で行われている／行われた興味深いイベント

- 欧州:MIPAA+20(高齢化に関するマドリッド国際行動計画 20周年)第4回レビューに向けて(国際連合欧州経済委員会(UNECE))

➤ <https://unece.org/population/ageing/MIPAA20>

➤ MIPAA および UNECE の地域実施戦略(RIS)が 2002 年にそれぞれ採択され、実施に関する 5 年ごとのレビューが 2021-2022 年に行われる。現在は、国別のレビューが現在進行中であり、国別報告が 2021 年 9 月末までに提出されることとなっている。MIPAA/RIS 実施レビューには、市民社会や高齢者が関われるようにするよう奨励されている。第 4 回目となる今回のレビューで UNECE 加盟国はまた、以下の点についてもカバーするよう求められている。

- ◇ 国連ヘルシーエイジングの 10 年に関する活動
- ◇ エイジズムと闘うグローバルキャンペーンへの参加
- ◇ 2030 アジェンダの実施に向けたエイジング関連政策への貢献
- ◇ COVID-19 対応からの学び

また報告の準備に向けて、以下のオンラインワークショップも開催しているほか、上記ページでは関連の資料もいくつかダウンロードできる。

- ◇ 2021 年 4 月 21 日: [Making participation meaningful: bringing governments and civil society together](#)(※)(参加を意義あるものに: 政府と市民社会の融合)→発表資料もダウンロード可能。

(※)<https://unece.org/population/events/meaningfulparticipation>

- ◇ 2021 年 5 月 19 日: [Healthy and Active Ageing in a Sustainable World: Synergies between international initiatives on ageing – one reporting exercise](#)(※)(持続可能な世界におけるヘルシーでアクティブなエイジング: 高齢化に関する国際的な取り組み間のシナジー)

(※)<https://unece.org/population/events/healthy-and-active-ageing-sustainable-world>



ILC-Japan または ILC-GA メンバーが関わった／関わっているイベント／取り組み

- ILC グローバルアライアンス: Global Alliance webinar. Why gender matters – Exploring the impact of gender on health and wellbeing in an ageing world(グローバルアライアンス・ウェビナー: ジェンダーはなぜ重要か? 高齢化社会でジェンダーが健康やウェルビーイングに及ぼす影響の探究)(6/2 開催予定)

➤ <https://ilcuk.org.uk/why-gender-matters-exploring-the-impact-of-gender-on-health-an>

[d-wellbeing-in-an-ageing-world/](#)

- ILC グローバルアライアンスの「ジェンダーと高齢化委員会」が6月2日に開催するウェビナーでは、高齢化社会でジェンダーが人々の健康やウェルビーイングへどのような影響を及ぼすかについて議論する。ジェンダーは、健康や就労、ケア、年金など、高齢化のあらゆる側面に関係しており、またジェンダーの影響は生涯にわたり続く。ILC グローバルアライアンス理事会が昨年立ち上げたこの委員会では、このようなジェンダーとエイジングの相互作用について理解を深める場の提供を目指しており、今回のウェビナーでもこの点を取り上げる。上記サイトより参加申し込みが可能。

- **ILC-UK: Drink Wise Age Well(賢く飲み上手に年を重ねよう)ワークショップのまとめ(4/12)**

- <https://ilcuk.org.uk/drink-wise-age-well-england-legacy-workshops/> (全文へのリンクあり)
- 50歳以上の人たちの飲酒量はコロナ以前から増加傾向にあったが、コロナ禍のロックダウン中は、50-70歳の3人に1人で飲酒量が増加していた。したがって、50歳以上の人たちの飲酒問題への対応は、かつてないほど重要性を増している。ILC-UKでは2021年初め、この年齢層の飲酒量減少に向けた様々な団体間の連携方法について、一連のオンラインワークショップを開催した。今回発表されたこの報告書では、ワークショップで浮かび上がった主なテーマをまとめている。例は以下の通り。
 - ◇ アルコール問題へ対応するためには、団体間の連携やシステム横断型の協力が必要
 - ◇ サービスの計画や提供では、経験者の声を中心となるべき
 - ◇ パンデミックからの学びを活かして、混合型のサービス提供を検討(デジタル技術の活用など)

- **【コロナ関連】ILC-UK: パートナーウェビナー: What happens next in the post-pandemic recovery?(ポストコロナの回復で次に何が起きるか?) (5/27 開催予定)**

- <https://ilcuk.org.uk/partners-webinar-what-happens-next-in-the-post-pandemic-recovery/>
- このウェビナーでは、長寿の課題とチャンスへの取り組みについて、COVID-19がどのような影響をこれまでに及ぼし、今後どのような影響を及ぼすかについて検討する。登壇者は、ケアや住宅、金融部門の代表者たちであり、幅広いトピックについて、COVID-19の影響を短期および長期的な視点から議論する。

- **ILC チェコ: 高齢者が自宅でできる体操プログラムをチェコで立ち上げ(4/7)**

- <https://www.ilc-alliance.org/news/czech-older-adults-will-exercise-from-home-a-new-project-has-just-been-launched-in-the-czech-republic/>
- 「Permanento: 高齢者向けの毎日の運動」と題した新たなプロジェクトでは、幅広い視点から高齢者の健康維持を目指している。参加者たちは、自らの健康維持の重要性や運動のメリットのほか、自分の健康状態や好みに応じた運動方法を学ぶ。プログラムでは短い体操の教育ビデオを提供するほか、各地域でアクティブな高齢者に対し、Permanento グループレッスンのトレーナー養成を行う。また介護施設でも、ソーシャル

州での公開は6月11日、また日本では5月14日に全国公開予定。

- **【コロナ関連】英国:高齢者ケアホーム職員の COVID-19 ワクチン接種義務化に関する意見を政府が募集(4/14)**
 - <https://www.gov.uk/government/consultations/making-vaccination-a-condition-of-deployment-in-older-adult-care-homes>
 - <https://consultations.dhsc.gov.uk/making-vaccination-a-condition-of-deployment-in-older-adult-care-homes> (アンケートページ)
 - <https://www.bbc.com/news/uk-56750679>
 - コロナパンデミックは、ケアホーム入居高齢者へ特に大きな影響を及ぼしており、施設で生活および就労する人たちのワクチン接種は極めて重要な課題である。接種は徐々に進んでいるものの、現在も感染リスク対策が不十分な施設が数多く存在する。ワクチン接種を更に進めるため、政府では2008年医療・社会的ケア法の2014年規則を改定し、高齢者ケアホーム事業者が COVID-19 ワクチン接種者(あるいは正当な理由で接種を免除されている者)のみを業務に従事させるようにすることを検討している。ついてはこの案について、政府ではホームページ上で広く意見を募集している。上記アンケートから回答可能で、締め切りは2021年5月21日。アンケートは現在、多言語(アラビア語、ベンガル語、中国語など約20か国語)や簡易な英語でも作成中。政府アドバイザーによると、COVID-19の感染拡大を防ぐには、職員の80%および入居者の90%以上がワクチン接種を行う必要があると推定される。しかし記事が出された4月中旬現在、150の地方自治体のうち、ロンドンを含む89か所で職員の接種率が80%を割っており、27の自治体では70%未満となっている。
- **英国: 中年期に睡眠時間が短いと高齢期の認知症リスクが高い可能性(4/20)**
 - <https://www.alzheimer-europe.org/News/Science-watch/Tuesday-20-April-2021-Researchers-find-that-sleeping-less-in-middle-age-may-be-associated-with-an-increased-risk-of-late-onset-dementia> (論文へのリンクあり)
 - 新たに発表された調査では、50-60代に睡眠が6時間未満の人は、高齢期の認知症リスクが高い可能性が示された。認知症は長期にわたって進行し、生活習慣などが影響を及ぼす可能性が近年の様々な調査で示されてきた。この度発表された論文では、50歳、60歳、または70歳時の睡眠時間と高齢期の認知症発症との関連性を分析した。Whitehall コホート調査の対象者約8,000人に関する30年間のデータでは、521人が認知症を発症しており、診断の平均年齢は77歳だった。対象者の睡眠時間を「6時間未満」「7時間」「8時間超」に分類した結果、50代または60代に睡眠時間が6時間未満だった人は、7時間以上だった人と比べて発症率が約30%高かった。この相関は、循環器系疾患や婚姻状況、BMI などすでに分かっている認知症リスク要因を調整後も見られた。
- **英国:「高齢期の性の楽しみ」ポスターキャンペーン(4/25)**

- <https://www.theguardian.com/society/2021/apr/25/love-in-an-old-climate-posters-celebrate-the-joy-of-sex-in-later-life>
 - <https://www.relate.org.uk/later-life-sex> (キャンペーン HP)
 - 5組のカップルの写真、そして女性1人の写真。これらはすべて、ヌードまたはセミヌードで撮影されており、4月25日よりポスターとして全国で掲げられる。「Let's Talk the Joy of Later Life Sex」(高齢期の性の愉しみを語ろう)と題したこのキャンペーンは、関係性に取り組む慈善団体の Relate が企画し、世界的に有名な写真家の Rankin が撮影を行った。それぞれの写真には、高齢期の性に関するステレオタイプを打ち破るようなメッセージが添えられている。「私たちは今、これまでにないほど親密さを求めています。これは事実です。年齢は関係ありません」と Rankin 氏は語る。また Relate 関係者は、多くの人たちが話しにくいと感じている高齢期の性について、会話を始めたり広げたりするよう同団体が取り組んでいる、と述べている。上記のキャンペーン HP からは、写真やインタビュービデオを閲覧可能。
- **米国:「2021年版シニアのデートサイト」ベスト12(4/14)**
 - <https://money.usnews.com/money/best-senior-dating-websites-to-find-love-in-2021>
 - この記事では、出会いを求めるシニアに役立つ12のデートサイトについて、それぞれの特徴や価格などをまとめて紹介している。年齢を区切らないサイトもあれば、シニアに特化したサイトもあり、後者の大半は50歳以上を対象としている。無料のアプリもあるが、月に20ドル前後の料金(全利用者または「プレミアム会員」に対して)がかかるサイトもいくつか見られる。
- **米国:ナーシングホームの経営改善を投資家が呼びかけ(4/27)**
 - https://khn.org/news/article/big-investors-push-nursing-homes-to-upgrade-care-and-working-conditions/?utm_campaign=KHN%3A%20First%20Edition&utm_medium=email&hsmi=123716741&hsenc=p2ANqtz-Lk2weBBway7MawZuEhqm-OHKIDT-mJlnBhkcPV3ErJmRK3RdQ8NVAgXEI9ONomGwmGnJWLS5UQIVStE5hx_p_ydk77g&utm_content=123716741&utm_source=hs_email
 - https://www.uniglobalunion.org/sites/default/files/imce/investor_statement_for_quality_care.pdf (投資家グループによる声明文)
 - 米国ではコロナパンデミックにより、ナーシングホームなどの介護施設で18万人以上の命が失われ、政府や規制当局より非難を受けていた。しかし今、投資家たちもこれらの施設に対して声を挙げ、職員の労働条件やケアの質などを改善するよう求めている。この度、米国内外で3兆ドル以上を扱う100か所近くの投資家グループが、ナーシングホーム業界に対して声明文を出した。労働条件やケアの改善にはコストがかかり、投資家としては経済的なリターンが減少しかねないため、今回のような投資家の動きは予期せぬものだった。しかしコロナ関連死の34%を占めるナーシングホームは、ビジネスとして好ましい状況ではなく、投資家たちは同業界の将来を懸念している。
- **【コロナ関連】米国:Uberアプリでコロナワクチン接種予約が可能に(4/28)**
 - <https://www.reuters.com/business/autos-transportation/uber-app-us-enable-users-bo>

[ok-vaccines-rental-cars-2021-04-28/](https://www.bloomberg.com/news/articles/2021-04-28/uber-app-offers-covid-19-vaccine-appointments-at-walgreens)

- <https://www.bloomberg.com/news/articles/2021-04-28/uber-app-offers-covid-19-vaccine-appointments-at-walgreens>
- 米国では Uber のアプリを使って、ドラッグストア Walgreen でのコロナワクチン接種や接種会場までの輸送サービスを予約できるようになる。Uber 社と Walgreen は 2 月に提携を結んでいるが、今回はそれを更に拡大した形。Uber 社は 2020 年、パンデミックによって移送サービスの需要が激減していたが、ワクチン接種が進み人々が活動を再開したこともあり、3 月頃から回復の兆しが見られるようになった。同社にとってはワクチン接種が進むことで、コロナ以前の外出や売り上げ増につながるのである。米国以外で同様のサービスをいつ開始するかについて、同社は明言していないが、国外でも積極的にパートナーシップについて取り組んでいるとのことである。

● **【コロナ関連】米国: ワクチンを 2 回接種した高齢者のコロナ関連入院率は 94%減(4/28)**

- <https://www.cdc.gov/media/releases/2021/p0428-vaccinated-adults-less-hospitalized.html>
- アメリカ疾病予防管理センター(CDC)によると、COVID-19 の mRNA ワクチン(ファイザーおよびモデルナ製)を 2 回接種した 65 歳以上の人は、同年代で接種していない人と比較してコロナ関連入院率が 94%低いことが分かった。1 回のみ接種した人の場合、接種していない人よりも入院率は 64%低かった。この結果は、コロナによる重症化への同ワクチンの予防効果について、治験データを裏付ける初めてのリアルワールドデータである。

● **オーストラリア: 王立委員会の最終報告に対する高齢者ケア消費者団体の共同声明(4/10、4/12)**

- <https://www.cota.org.au/news-items/joint-statement-by-aged-care-consumer-organisations/> (全文へのリンクあり)
- <https://nationalseniors.com.au/news/media-release/aged-care-consumer-organisations-propose-aged-care-reform-plan>
- <https://nationalseniors.com.au/uploads/Peak-Consumer-Aged-Care-Groups-Reform-Plan.pdf> (メディアリリース)
- 2021 年春に発表された、高齢者ケアに関する王立委員会の最終報告に対し、12 の高齢者ケア消費者団体が共同声明を発表し、同委員会報告へ政府が適切に対応するための提言を行った。そこにはたとえば事業者の透明性向上、職員の配置基準改善や給与増額、権利に基づく新たな高齢者ケア法などが含まれる。また改革実施の特別委員会を設け、取り組みを進めていくことも提言している。

● **【コロナ関連】オーストラリア: コロナウイルスの死別・トラウマ支援サービス: パンフレットとポスターが完成(4/14)**

- <https://www.health.gov.au/resources/publications/coronavirus-covid-19-grief-and-trauma-support-services-brochure> (パンフレットへのリンク)
- <https://www.health.gov.au/resources/publications/coronavirus-covid-19-grief-and-trauma-support-services-posters>

- [ma-support-services-poster](#) (ポスターへのリンク)
- <https://www.health.gov.au/health-topics/aged-care/advice-on-aged-care-during-covid-19/grief-and-trauma-support-services> (サービス HP)
 - オーストラリア政府では、高齢者ケアの利用者や家族、地域住民、職員などを対象に、トラウマや認知症、死別などについて、対面、電話およびオンラインでの支援を提供している。これらのサービスに関する認知向上を図るため、パンフレットとポスターが作成された。このプログラムでは、通訳・翻訳サービスも提供されている。
- **ニュージーランド:ヘルシーエイジングに役立つ無料アプリ「LifeCurve」(4/4)**
 - <https://www.sunlive.co.nz/news/265786-lifecurve-app-aging-well-launches-bop.html>
 - <https://bayofplenty.lifecurve.co.nz/> (アプリのサイト)
 - 健康的に年を重ね自立し続けるのに役立つ無料アプリ「LifeCurve」が4月上旬に発表された。これは国際的な研究に基づいて開発されたものである。アプリ利用者は、19の簡単な質問(山田メモ:私もトライしてみました。主にADLやIADLに関する質問です)に答え、その結果に基づいて、利用者が自分で出来ることのアドバイスや支援の情報を選べる。アプリのダウンロードはアップルでもアンドロイドでも可能であり、「LifeCurve」で検索すると見つかる。
 - **ニュージーランド:真夜中に高齢者を退院させる病院が続出(4/17)**
 - <https://www.newshub.co.nz/home/politics/2021/04/national-slams-broken-healthcare-system-discharging-elderly-from-hospital-in-middle-of-the-night.html>
 - 午前1時から8時までの間に退院させられた80歳以上の患者が、2021年1月だけでも全国で156人にのぼることが分かった。救急部門の病床不足が原因と考えられる。この状況はニュージーランド全国で見られるが、オークランド北部と西部をカバーするWaitemata地区が特に多く、23件発生していた。地区担当者は、適切な支援が確保されない状態で脆弱な高齢者が退院させられることは決してなく、患者や家族の同意や適切な移送手段など4点の要件が定められていると反論する。しかし保健副大臣はニュース番組で、この問題について調査していくと述べた。
 - **ニュージーランド:20人を超える100歳以上高齢者が現在も車を運転(4/18)**
 - <https://www.stuff.co.nz/national/300278929/more-than-20-drivers-aged-100-are-still-on-kiwi-roads-as-ageing-population-prompts-plea-for-caution>
 - ニュージーランドでドライバーが高齢化する中、オークランドのAge Concernは家族に対し、高齢者の運転に危険を感じた際の介入を呼びかけている。同国では現在、100歳以上のドライバーが23人(男性14人、女性9人)おり、65歳以上のドライバーは約63万人いる。2030年には、65歳以上のドライバーが全体の1/4を占めると予測される。Age Concernでは、地域の運輸局と共同で運営する安全運転プログラムへ高齢ドライバーが参加するよう呼び掛けている。ニュージーランドの高齢ドライバーは、75歳と80歳で免許更新が義務付けられ、その後は2年ごとの更新となっている。更新時は毎回、診断書の提出が求められ、医師の勧告があった場合には30分間の路上試験が行われる。



海外／国際機関で最近発表された法律・規則・提言など

- **米国: バイデン大統領のインフラ計画で 4,000 億ドルが在宅ケアに(3/31)**
 - <https://www.aarp.org/politics-society/government-elections/info-2021/biden-american-jobs-plan.html>
 - <https://www.npr.org/sections/health-shots/2021/04/09/985567929/whats-in-bidens-400-billion-plan-to-support-families-long-term-health-needs>
 - <https://apnews.com/article/joe-biden-politics-coronavirus-pandemic-medicare-nursing-homes-87f68c3bcb831cced4defdddc2393f6>
 - <https://www.reuters.com/article/usa-biden-infrastructure-care-idJPKBN2BU069> (日本語記事)
 - 3月31日にホワイトハウスから議会に提案された支出計画では、2兆ドルにのぼるインフラ計画のうち4,000億ドルを高齢者・障害者の在宅ケアに充てた。詳細は明らかになっていないが、バイデン政権によって「インフラ」の定義がシフトしていることが見て取れる。しかし共和党からは反対の声があがっている。
- **オーストラリア: 政府が在宅ケアの支払い方法を変更(4/22)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/improved-payment-arrangements-for-home-care-provider-fact-sheet> (事業者向けファクトシート)
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/improved-payment-arrangements-for-home-care-care-recipient-fact-sheet> (利用者向けファクトシート)
 - オーストラリア政府は、在宅ケアパッケージの支払い方法を変更する。これまでは前払い制だったが、今後は実際の提供サービスに基づいた後払い制となる。この変更によって在宅ケアは、他の政府プログラムと支払方法と足並みが揃うこととなる。現在は、利用されなかった資金は事業者が保管していたが、今後は政府が利用者に代わって保管することとなる。この変更は、2段階(2021年2月1日～、同年9月1日～)に分けて実施予定。上記各資料では、事業者向け、利用者向けそれぞれで変更内容についてまとめている。



海外／国際機関で最近発表された／近日発表される 報告書・ガイドブックなど

- **【コロナ関連】WHO: Living with the Times(この時代とともに生きる)(4/19、WHO作成のツールキット)**
 - <https://www.who.int/news/item/01-04-2021-living-with-the-times-new-toolkit-helps-older-adults-maintain-good-mental-health-and-wellbeing-during-the-covid-19-pandemic>
(全文およびポスターへのリンクあり)

- <https://www.age-platform.eu/publications/who-publishes-toolkit-well-being-older-people-during-covid-19>
 - ポスターと冊子から成るこのツールキットは、コロナパンデミックの中で高齢者が自らのウェルビーイングを保つ方法について紹介している。ポスターは5種類(「体の健康」「こころの健康」「家族や地域とのつながり」「支援の受け方」「死別や喪失」)あり、それぞれ文字を最小限に抑えながら、多様性を考慮したユニークなイラストで対応策をまとめている。冊子は精神保健の支援職向けに作成され、上記ポスターを活用して高齢者との対話を進めるためのガイドとなっている。キットの作成には様々な専門家のほか、51 か国から200人近くの高齢者も関わった。
- **欧州: The ageing revolution: towards a European Silver Deal?(エイジング革命: 欧州のシルバードールへの道?) (4/15、欧州空間計画観察ネットワーク(ESPN)による政策提言)**
 - <https://www.espon.eu/ageing-revolution> (全文へのリンクあり)
 - 欧州の人口は高齢化しており、2050年には高齢化率が24%に達すると見込まれている。ESPNは、高齢者に優しい地域づくりの支援や高齢者の利益を配慮した政策作りで役割を担ってきた。2020年11月に行われた高齢化会議では、高齢化をチャンスとして捉え、「グリーンディール」と同様に「シルバードール」を打ち出すアイデアが複数の都市より出され、参加者たちからも賛同を得た。この政策提言では、欧州の地域、国、地方、都市の政府に対し、効果的なエイジフレンドリーな地域づくりについてまとめており、優れた実践例も紹介している。
- **英国: Ads for all ages: How age-biased are job adverts in the UK, and what can we do about it? (あらゆる年齢層に向けた広告: 英国における求人広告の年齢バイアスとその対応) (4/22、Centre for Ageing Better 報告書)**
 - <https://www.ageing-better.org.uk/news/inclusive-language-job-adverts-win-win-employers-and-jobseekers> (全文へのリンクあり)
 - 高齢就労者の効果的な採用方法に関するCentre for Ageing Betterの報告書第3弾では、求人広告で使われる言語に注目し、これが高齢就労者へどのような影響を及ぼすかについて分析した。その結果、求人広告の文言が、高齢者による実際の応募よりも、自分がその仕事や会社に合っているかという高齢者の認識へ強く影響を及ぼしていることが分かった。たとえば「イノベーション」や「テクノロジーに精通」といった表現は、高齢求職者にとっては応募しても採用されないのではと捉えられることが多かった。他方、高齢の応募者に魅力的な文言(柔軟な就労形態、手厚い福利厚生など)によって若い求職者がネガティブな感情を持つことはなかった。しかし実際に求人広告で用いられている文言の多くは、若者が魅力を感じる一方で高齢者は躊躇しがちな内容であった。報告書では、具体的な改善案についてもまとめている。
- **【コロナ関連】英国: A U-shaped crisis: The impact of the Covid-19 crisis on older workers (U字型の危機: コロナ危機が高齢就労者に及ぼす影響) (4/26、Resolution Foundation 報告書)**
 - <https://www.resolutionfoundation.org/publications/a-u-shaped-crisis/> (全文へのリンクあり)

- <https://www.theguardian.com/world/2021/apr/26/quality-support-for-uk-over-50s-who-lost-jobs-in-pandemic-raises-concerns-resolution-foundation>
- 英国でコロナ危機が若者の雇用に大きな影響を及ぼしたことは良く知られているが、高齢者にも深刻な影響が及んでいる。この報告書では、危機が高齢就労者に及ぼす影響について、コロナだけでなく長期的な視点からも分析している。高齢者の雇用は1990年代以降増加し続けており、これは主に高齢女性の就労が増えたためである。2019年には50-64歳の就業率が73%に達し、これは労働力調査が1975年に始まって以来最高レベルだった。しかしコロナ禍で、2020年第4四半期における50-69歳の就業率は前年同期比で1.4ポイント減少し、25-49歳の低下率(0.7ポイント減)よりも減少幅が大きかった。また高齢者は一旦失業すると、再就職が若者よりも困難であり、再就職できても所得が大幅に減少する傾向が見られた。高齢者の再就職支援に向け、政府は高齢者特有のニーズや経験を考慮した取り組みを行う他、再教育や税控除などの施策も検討すべきである。
- **【コロナ関連】オーストラリア: Residential care visitor access survey report (施設ケアへの訪問者アクセスに関する調査報告) (2021年3月、高齢者ケアの質と安全委員会報告書)**
 - <https://www.agedcarequality.gov.au/news-centre/newsletter/aged-care-quality-bulletin-28-april-2021>
 - <https://www.agedcarequality.gov.au/sites/default/files/media/Residential%20care%20visitor%20access%20survey%20report%20%28March%202021%29%20v1.pdf> (全文)
 - 高齢者ケアの質と安全委員会は2020年12月から2021年1月にかけて、全国の高齢者介護施設2,500か所以上を対象に、施設訪問者のアクセスについて調査を行った。その結果、大半の事業者では、地域で定められる感染予防策を講じながら訪問者のアクセスについて適切なプロセスを整備していた。しかし、制限なしに入居者が施設から外出して戻るという事には、躊躇する意見が比較的多かった。また、直接の訪問を許可していた事業者の割合が高かった一方で、リモートでの訪問やロックダウン中における家族等との連絡促進については実施率が低かった。報告書では、状況改善に向けた提言も記載されている。
- **オーストラリア: Commonwealth Home Support Programme (CHSP、連邦在宅支援プログラム) マニュアル更新版(4/21)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/commonwealth-home-support-programme-chsp-manual> (全文および変更部分一覧へのリンクあり)
 - この2020-2022年版のCHSPマニュアルでは、資金提供対象となるサービスの種類や提供の際の要件などをまとめており、事業者が参考にする資料となっている。上記ページからは、全文ファイルに加え、変更部分のみを赤字でまとめたリストも別途掲載している。
- **ニュージーランド: ケアラーガイド最新版(2021年2月)**
 - <https://www.msd.govt.nz/what-we-can-do/community/carers/index.html>
 - <https://www.msd.govt.nz/documents/what-we-can-do/community/carers/a-guide-for->

[carers-spreads.pdf](#) (全文)

- 社会開発省はこの度、ケアラーガイドを改訂した。ガイドでは以下のセクションで情報をまとめている。
 - ◇ Money(おかね): 経済的支援の種類と担当窓口、様々なサービスの種類と詳細情報へのリンクなど
 - ◇ People(人): ニーズごとの支援機関の概要と詳細情報へのリンクなど
 - ◇ Things(もの): 機器に関する情報、住宅や車両の改修など
 - ◇ Directory(連絡先一覧): 様々なサービスの連絡先一覧